

JCC第6回総会

次世代クラウドサービス検討WG

第3事業年度：活動報告

～ これまでの総括と今後の活動計画について ～

2013年12月16日

特定非営利活動法人

ASP・SaaSインダストリ・コンソーシアム

- 1. 当初の活動計画書とメンバー**
- 2. 3カ年の活動の概要**
- 3. 主要な成果**
- 4. 今後の活動の進め方**

1. 当初の活動計画書とメンバー・・・計画書

次世代クラウドサービス検討WGの活動計画書（当初）

目標

現在振興しつつある多様なクラウドサービスを俯瞰した多くの意見に基づき、**日本が国際的に競争力を持つ高度な社会インフラサービスの実現に向け、日本のICT業界が取り組むべき次世代クラウドサービスの在り方・方向性について検討・提言する。**

課題認識

高度化された社会インフラを実現するスマートクラウド基盤をベースにした日本ならではの**次世代クラウドサービスとは何か、そのサービスモデルとしての構造、実現するために必要な技術・法制度など検討事項・課題が広範多岐に亙るため、全体動向を見据えた上で優先分野を決めて検討する。**

具体的検討項目

STEP1:情報収集・整理

- 国内外の先進的提供／利用事例の情報収集・整理
- 次世代クラウドサービスの**定義と検討すべきテーマ**に係る意見の収集・整理

STEP2:課題検討

- 検討テーマの分野的整理・仕分け、及び現状分析による**各種課題の抽出・検討**
- 上記課題の原因分析による解決に向けた検討

STEP3:具体化

- STEP1, 2の検討を踏まえ、実行に移すべきアイデアが生じれば、**実際に実行に移す**

今年度Q1

Q2～3

Q4～

1. 当初の活動計画書とメンバー・・・メンバー

No.	社名／団体名	No.	社名／団体名
主査	特定非営利活動法人 ASP・SaaS・クラウド コンソーシアム	20	株式会社日本能率協会コンサルティング
1	NPO 東京IT コーディネータ	21	株式会社日立コンサルティング
2	アクセンチュア株式会社	22	株式会社日立ソリューションズ
3	アジア航測株式会社	23	株式会社日立製作所
4	ウイングアーク テクノロジーズ株式会社	24	三菱電機株式会社
5	クラスメソッド株式会社	25	電子行政コンサルタント
6	クリエーションライン株式会社	26	情報通信研究機構 情報通信セキュリティ研究センター
7	パナソニック株式会社	27	新日鉄ソリューションズ株式会社
8	フューチャーアーキテクト株式会社	28	神奈川県町村情報システム共同事業組合
9	プライスウォーターハウスコンサルタント株式会社	29	東京海上日動火災保険株式会社
10	ブロードバンドeビジネス協議会	30	凸版印刷株式会社
11	伊藤忠テクノソリューションズ株式会社	31	内閣府認証 特定非営利活動法人 ITプロ技術者機構
12	一般社団法人クラウド利用促進機構 (CUPA)	32	日本ヒューレット・パッカード
13	株式会社 富士キメラ総研	33	日本マネジメント総合研究所
14	株式会社IDCフロンティア	34	日本電気株式会社
15	株式会社スマイルワークス	35	日本電信電話株式会社
16	株式会社ネットワールド	36	日立キャピタル株式会社
17	株式会社プリスコラ	37	エプソン販売株式会社
18	株式会社リコー	38	一般社団法人 情報通信技術委員会
19	株式会社豆蔵	39	株式会社NTTデータ
		40	シスコシステムズ合同会社

: 作業部会メンバー会社・団体

2. 3カ年の活動の概要

3カ年の活動概容

事業年度 (1-12月)	Quarter	活動内容	会合回数		
			WG	分会	個別
第1年度 (H11年)	Q1~2	● 次世代クラウドの 定義、コンセプト	1回	3回	—
	Q3~4	● 検討 テーマの探索、選定	1回	3回	—
第2年度 (H12年)	Q1~3	● 案内容の タマ込め ● 役所・専門家への 訪問・提案活動	—	3回	16回
	Q4	● 活動方針の 見直し	—	2回	—
第3年度 (H13年)	Q1~2	● C市への提案 、関連情報収集	—	1回	4回
	Q3~4	● C市への提案 、関連イベント参加	—	—	2回

ターゲットは具体化傾向

規模、回数は漸減傾向

3. 主要な成果・・・次世代クラウドの定義

次世代クラウドサービスには将来目指すべき幾つかのモデルがあると考えられるが、当面のターゲットとなるものを定義付け、そのコンセプト、構成要素等を以下のように定めることが出来た

次世代WGが目指すクラウドサービスの全体コンセプト

クラウドの特長を活かし、**業種・業態を越えた連携と分散化利用**を通じて、**グローバル展開の可能な「大災害に強い新しい国づくり・街づくりに役立つ」**高度な社会インフラサービスを提供する

今回提案対象とするサービスを構成する2つの要素

① 大災害等非常時に備え、**情報収集・連携PF**を有効活用していること

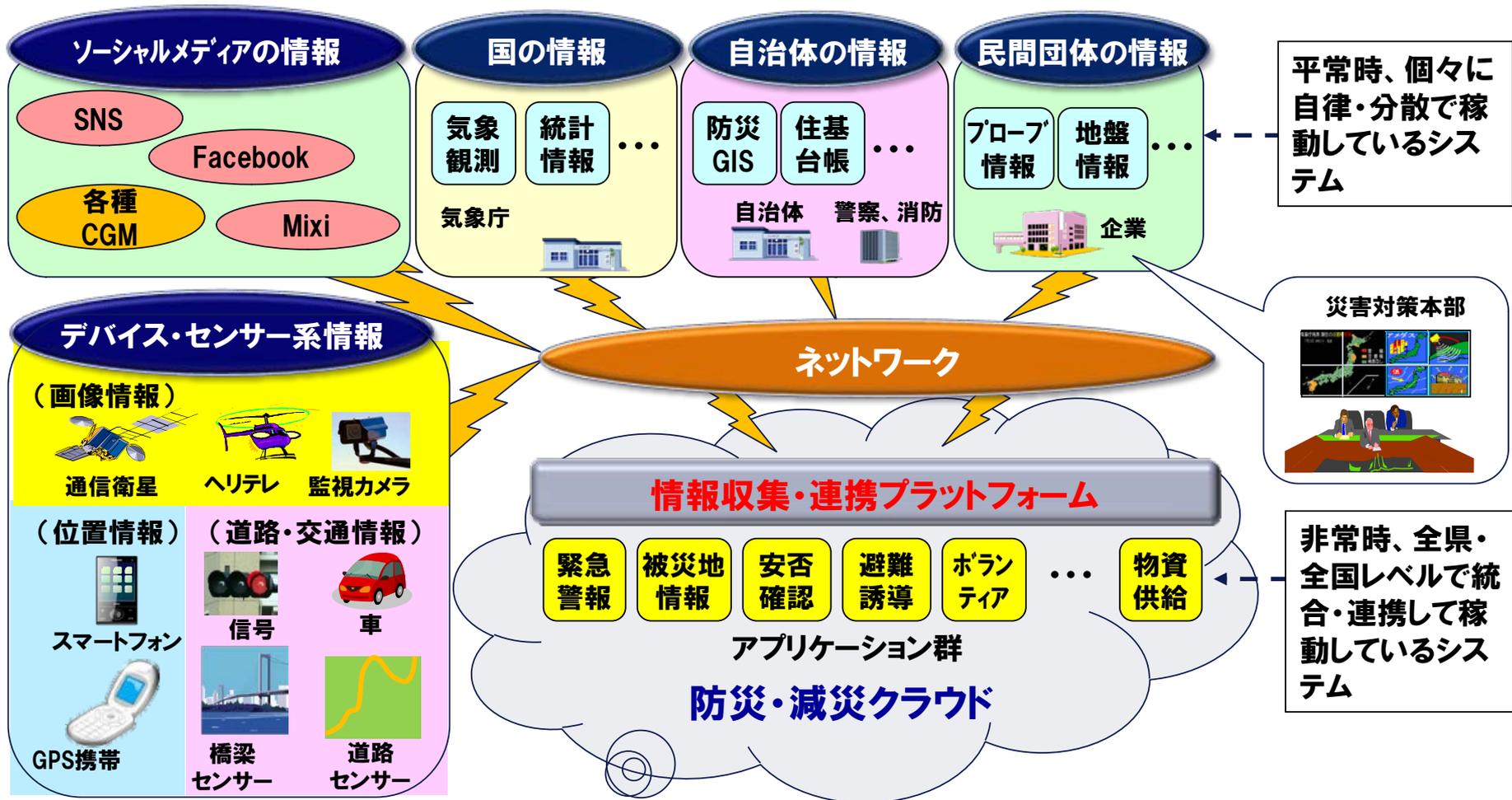
情報収集・連携プラットフォーム(PF)は、平常時に自律・分散で稼動している各種情報システムからの情報を、非常時に収集・連携させ、分析・活用が出来るように構築される

② **高度防災・減災システム**を上記収集・連携PF上で展開させること

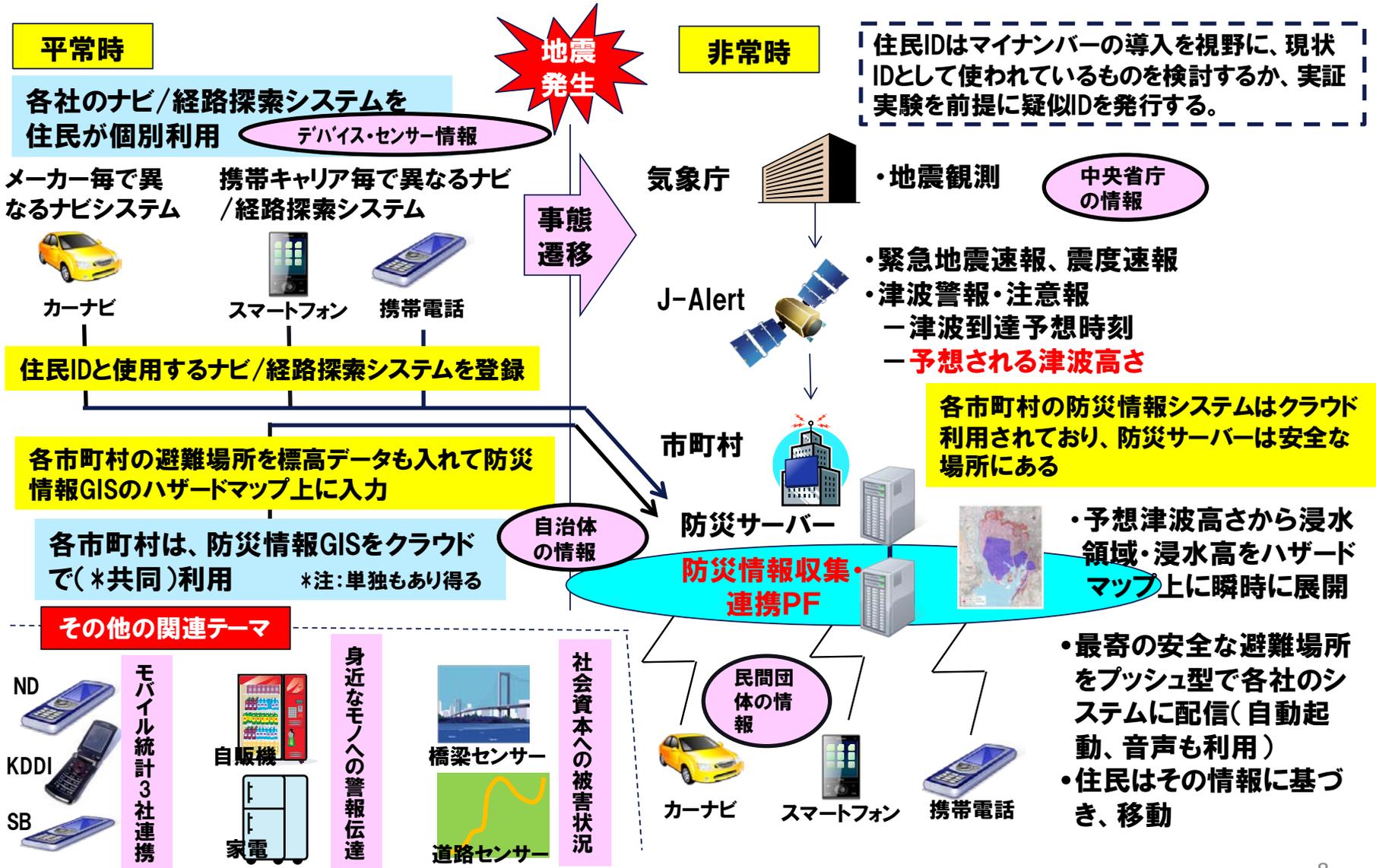
上記収集・連携PFを介してクラウドの利用がなされ、社会・インフラからの多様な情報を産・官・国民間の連携で収集・分析・共有・活用することにより、平常時から復旧までシームレスに使うことの出来る**高度防災・減災システム**が展開される

3. 主要な成果・・・提案ネタ作り(情報収集・連携PF)

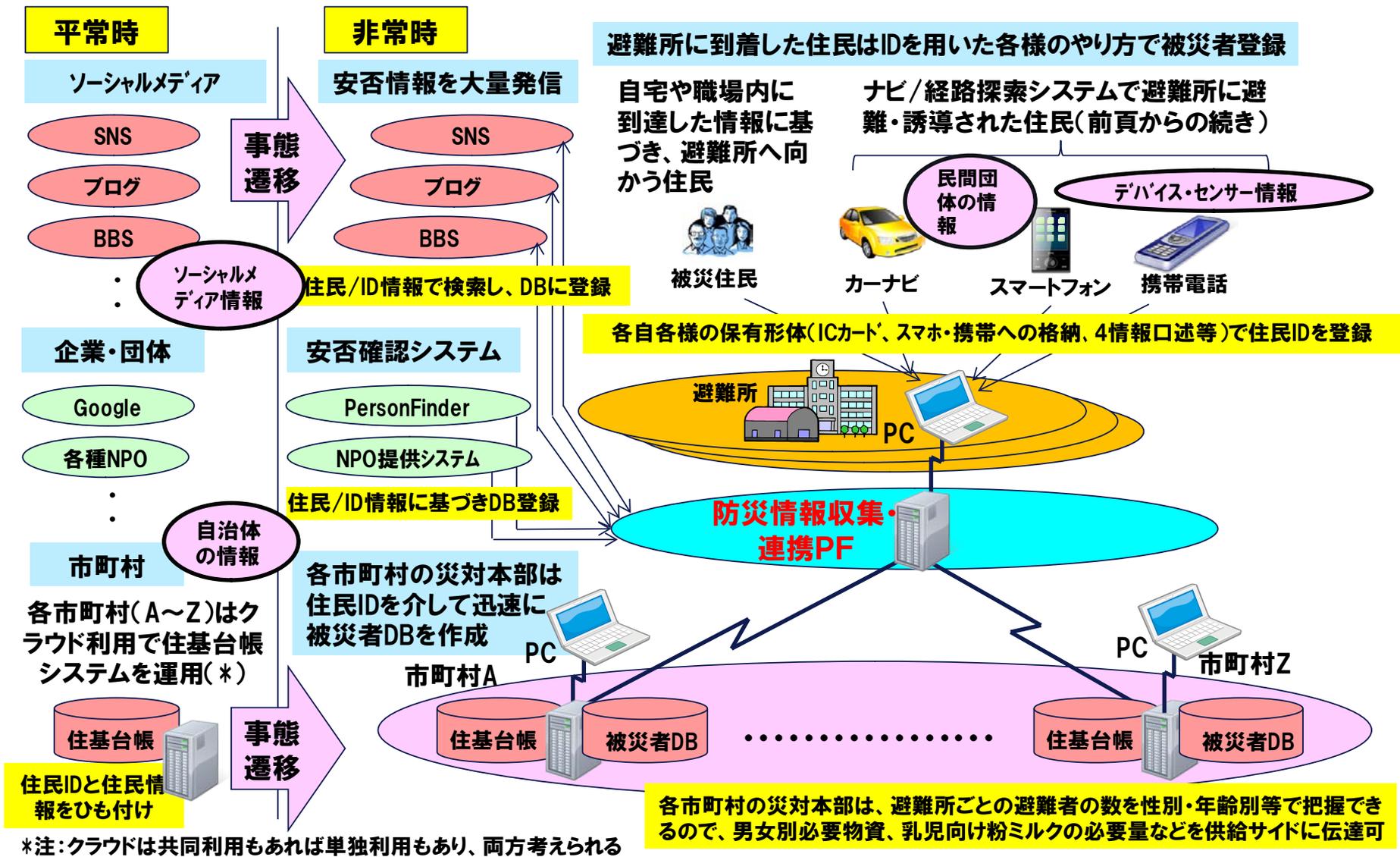
これに基づく次世代クラウドの深堀テーマを定め、実証フィールドとなる自治体への提案ネタを仕込むことが出来た



3. 主要な成果・・・提案ネタ作り（避難誘導システム）



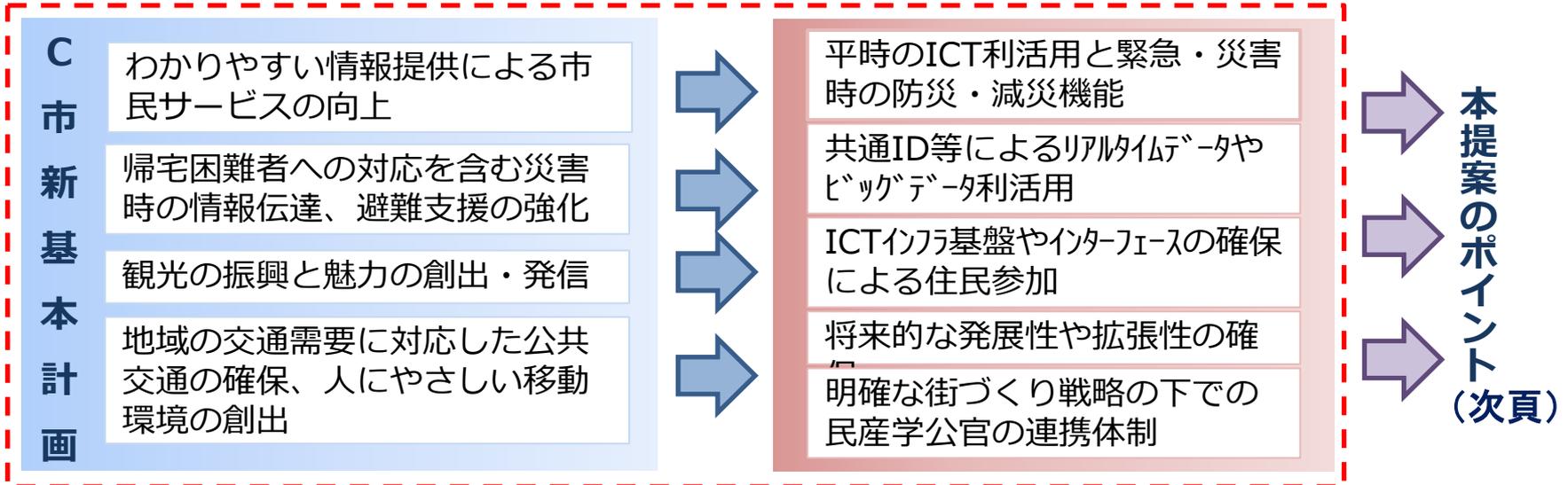
3. 主要な成果・・・提案ネタ作り（被災者支援システム）



3. 主要な成果・・・C市への展開(ICT街づくり)

提案のスコープを防災+ICT街づくりの方にシフトし、オープンデータに積極的なC市に展開することが出来た

JCC次世代クラウドWG



C市と共に

総務省の「ICT街づくり」実証事業を目指す

我々の目指す「わかりやすい」情報とは？



市民の誰もが見て、すぐに認識できる標識や指示表示
ICTと近代社会科学で実現

- 地理空間情報
- デザイン心理学



(参考)C市への提案内容(抜粋)

①人口と施設稼働状況の把握・分析、災害時避難行動の検討

《平常時》

人口分布と各地に存在する施設の人口を把握し、各種センサー情報を収集・分析することで、地域の「都市計画」「街づくり」ならびに「ビジネスへの展開」を図る

《災害時》

- ・市民に効率的でわかりやすい情報を伝える基盤
- ・一時滞在施設の確保、広報誘導体制の確立
- ・各避難所間の情報共有基盤

地理空間情報による
オープン・ジオ・ポータル

②児童、高齢者、外国人居住者、イベント来訪者の安心・安全

《平常時》

- ・ショッピングモールやイベント会場でのAR誘導
- ・接触式ICカードで校門、公園等児童の通過把握
- ・市立小中学校等に無線AP導入。教員のPC接続
- ・住民から不審者情報の取り込み、広報

《災害時》

- ・帰宅困難者への交通情報提供、避難誘導
- ・外国人旅行者への避難指示、誘導
- ・避難所、避難場所、備蓄倉庫として登録されている施設の連絡手段

③環境負荷軽減、集約型都市構造への転換にともなう高齢者の移動手手段確保

《平常時》

- ・高齢者の健康維持、交流のための施設を整備
- ・農村部を含めた生活圏への交通結節点を形成し、上記施設へのアクセスを整備
- ・自動車運転を卒業した高齢者が閉じこもることなく外出し、経済活動に参加することを促す、超小型EVカーや電動カートの運用。

《災害時》

- ・センサーによる充電状況や駐車時間、自動車位置等を集中管理し、異常を察知
- ・緊急時、自力で避難できるように支援
- ・避難所などでバッテリーを非常利用
- ・復旧時にはセンサー情報から道路状況などを把握

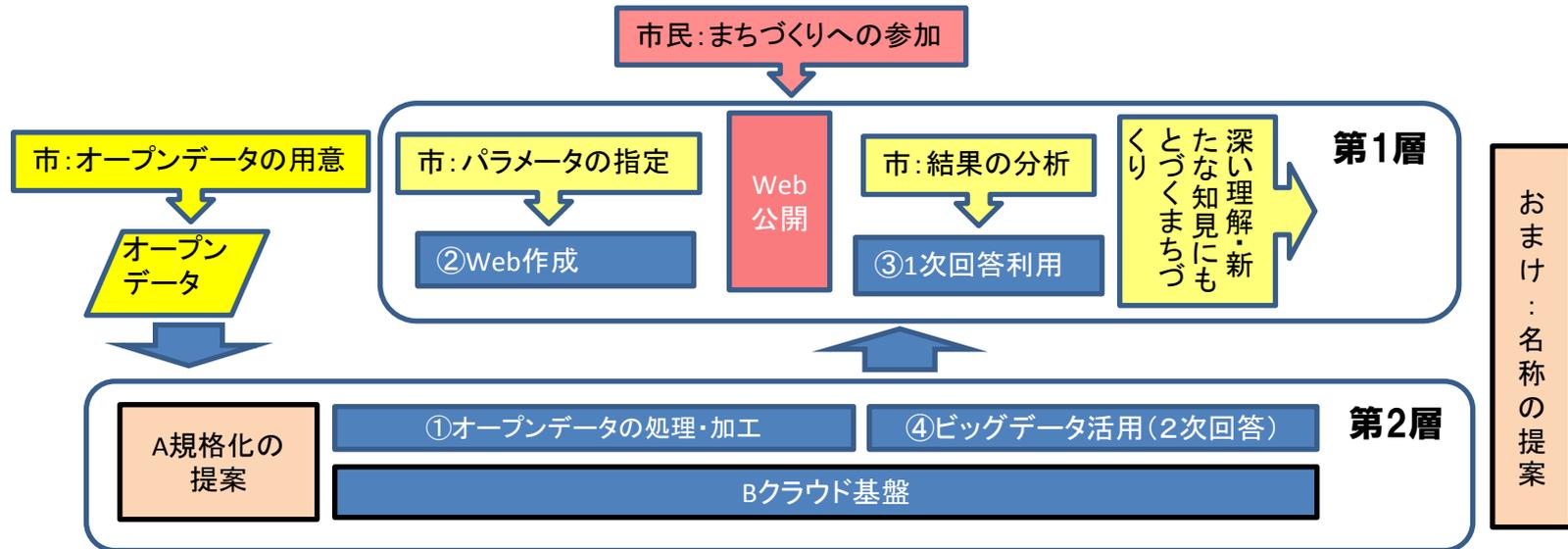
3. 主要な成果・・・C市への展開(リレーション)

リーダー & 事務局によりC市にアプローチし、リレーション作りに役立てた

- 1/15(火)、市の情報収集のため行った**危機管理課訪問**により、トップダウンでないと難しいと判断し**市長への提案**を準備
- 2/25(月)、**市長訪問**
 - ー 随行対応者: 情報統括部
 - ー 市としてやりたいことそのものとの反応
 - ー **ビッグデータ・オープンデータ活用推進協議会**を立上予定
 - ー ICT街づくりとなると、予定・計画にはなかったことなので、**受け皿(要員)**があるわけではない
- その後も情報統括部の訪問を行うと共に、力を入れているオープンデータへの取組に参画。アイデアコンテストに応募してリレーション維持に努めた

3. 主要な成果・・・アイデアコンテストへの参加

全体モデル



1. 全体モデルを提示
2. 上記①～④が提案内容
3. 実例としてオープンデータを使った「わがまち検定」を提案
4. 入力データを代えれば、他(多)分野に活用できることを紹介



上記の全体モデルの他、4つの個別提案を行った。うち、「わがまち検定」は佳作に入った

4. 今後の活動の進め方

第10回作業部会を開催(年内目途)

- 事務局からこれまでの活動経緯を説明、総括
- 来年度から活動方針検討会を開催してJCCの方針決定がなされる旨を説明
- それを踏まえて、WGとしてどうもっていくか、どうもっていききたいかを議論
 - －JCCの運営
 - －WGのテーマ
 - －ターゲット、等